◆LNP  
・ラットの実験で、LNP(細胞分裂を阻害する劇薬)が48時間後も肝臓、脾臓、副腎及び卵巣にとどまっていることが確認されている。(それ以降のデータはなし)  
<https://www.pmda.go.jp/drugs/2021/P20210212001/672212000_30300AMX00231_A100_5.pdf>　(P16)4.2.2 3H 標識ルシフェラーゼ遺伝子発現 mRNA-LNP の分布（CTD 4.2.2.3.2）　ラット（雌雄各 3 例/群）にルシフェラーゼ遺伝子発現 mRNA3H 標識 LNP15）が RNA 量として 50 μg　単回筋肉内投与され、投与 48 時間後までの放射能の組織分布が検討された。投与部位の放射能濃度は、　投与 1 時間後に最高値（394 μg lipid eq./g）を示した後、経時的に減少し、投与 48 時間後では 165 μg lipid　eq./g であった。投与部位以外で放射能が認められた主な組織は、肝臓、脾臓、副腎及び卵巣であり、投　与 8～48 時間後に最高値（それぞれ 26、23、18 及び 12 μg lipid eq./g）を示した。

　(平成31年４月17日 第３回 妊産婦に対する保健・医療体制の在り方に関する検討会)  
　・胎盤移行性がある物質を含む場合は推奨してはならない  
　<https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/000502229.pdf>